
罪あるものを裁くもの

クロラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪あるものを裁くもの

【Nコード】

N7588F

【作者名】

クローラ

【あらすじ】

裏の社会で生きる親子の悲劇。少々悲しめのはなし。

「シン、誕生日おめでとう。」

おまえも今日から立派な大人だ。」

「はい、ありがとうございます、父さん。」

18歳の誕生日のことだった。

父さんは自室に俺を呼び出した。

「シン、わかっていると思うが、これからは俺の仕事はおまえに任せる。」

…わかるな?」

「はい。」

罪ある者に裁きを下すことです。」

我が家の代々引き継がれてきた仕事。

それは罪ある者への制裁。

いわゆる犯罪者の暗殺である。

人は過ちを犯す。

それを裁くのが裁判である。

しかし、裁判を行うのも、所詮は普通の一般市民。
金さえだせば罪を逃れられる。

それに、金がなくとも、事件の証拠を消して、ウソを貫き通せば犯罪者でなくなるのだ。

そんな卑怯な奴らを裁くのが我が家で代々引き継がれてきた仕事。

俺たちは決して表に出ることはない。

一般市民と接する機会も少ない。

ただ俺たちは、陰で仕事をこなすだけなのだ。

小さい頃から父さんを見てきた。

彼の腰に備え付けてある、先代から引き継がれてきたリボルバー。

あれで何人も罪人を裁いてきた。

失敗したことは、ない。

父さんの仕事は完璧だった。

そんな父さんを、父さんの仕事を尊敬していた。

俺も18になった。

ついに、父さんの仕事を引き継ぐ日が来たのだ。

「それじゃあ受け取れ。」

そういつて父さんは腰につけた拳銃を渡す。

俺は両手で丁寧に受け取る。

すごく重い気がした。

「じゃあ、最初の仕事をしてもらおう」

そういつて俺に一枚の封筒を渡した。

俺もその封筒を何回か見たことがあった。

この封筒に入っている紙に犯罪者の名前が書いてある。

俺は、ただそいつを裁けばいいのだ。

折り畳んであった紙を開いた。

俺は目を疑った。

「シン、最初の犯罪者は…

俺だ。」

え？何いつてるの父さん？

「と、父さん……？」

何これ？何かの間違いだろ？」

俺は驚いて父さんを見る。

父の目は真剣そのものだった。

「いや、…これが掟なんだ。

俺も自分の父を殺した。」

俺ははっとした。

そういえば、俺に祖父などいなかったのだ。

俺は気が動転した。

「そんなの…おかしいじゃないか！

父さんは犯罪者を裁いてきただけ…」

「違う！…」

いきなり父さんが叫びだした。

こんなに叫ぶ父さんをはじめてみた。

「俺は……殺してきたんだ。」

人を殺してんたんだ!!」

父さんがいった。

俺は納得いかなかった。

違う、父さんは裁きを下してたんだ。

殺しなんかじゃ……………。

「さあシン、そいつで撃て。

ちゃんと教えただろ？」

おれはさっち父さんからもらったリボルバーを構える。

俺の中で葛藤が始まる。

俺は犯罪者に裁きを下すんだ。

父さんは、父さんは……………。

「早くしろ!!」

父さんが怒鳴った。

俺は引き金を引いた。

銃声とともに一筋の涙が流れた。

そのときだった。

父さんが一瞬だけ笑っていた。

どうしてかはわからなかった。

そして、父さんは目をつぶった。

弾はしつかり頭を貫通していた。
外れるわけがない。

俺は父さんの子なのだから。

手元がまだ震えていた。

俺は殺したのだ。

裁いたのではない。殺したのだ。

俺は初めて父さんの言っていた意味がわかった。

そして、最後に笑っていた意味もわかった。

早く楽になりたいと思った。

早く子供をつくり、いつか大人になったときに、俺を殺してほしい
と思った。

きつと父さんもそう思っていたのだ。

俺は今日も犯罪者を殺している。

そして、今は子供にそれを教えている。

子供が18になるまであと5年。

長い長い5年が始まる。

(後書き)

読んでいただきありがとうございました。感想、文章へのアド
バイスなどありましたらぜひ書いてください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7588f/>

罪あるものを裁くもの

2010年12月30日10時18分発行